

2026 年度 第 1 回 亀田医療技術専門学校 教育課程編成委員会議事録

日時:令和 8 年 6 月 22 日(月) 15:00～16:30

場所:亀田医療技術専門学校 2 号館 3 階 301 教室

出席者

教育課程編成委員

- ・鴨川市健康推進課 課長 長幡 祐自
- ・亀田総合病院看護管理部 副部長 滝口 智子
- ・千葉県看護協会安房地区部会 副会長 影山 ユウ子

専門学校教職員

- ・学校長 安田 友恵
- ・副学校長 吉田 広美
- ・看護学科教育主任 関根 恵子
- ・看護学科教育副主任 新井 淳子

敬称略

司会:吉田副学校長

委員会次第

1. 開会、資料確認

吉田副学校長が司会を務め、資料の有無を確認。

2. 出席者の確認 (資料 1)

鴨川市県推進課課長の長幡祐自氏が、今年度より委員に就任した。

3. 学校長挨拶

専門学校を取り巻く環境は非常に厳しく、激しい競争環境の中にある。しかし、医療人養成機関として求められる「人材輩出」「学生の確保」「教員の質の向上」を追求するとともに、地域活動の充実を図っていく。特に最優先課題である学生の確保に向け、近隣市町村との連携を強化し、教育の実践能力を高めることで、より充実した教育環境を構築していく。委員の皆様には、ぜひ忌憚のないご意見をお願いしたい。

4. 報告・討議

1)看護学科ポリシーの改訂について (資料 2)

- ・現行の指定規則については 2023 年度から適用され、今年で 4 年目になる。その際、時間の

縛りはなくなったが、単位数は増加した。(97 単位→102 単位へ)

- ・分野は「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の 3 つ。
- ・求められる基礎教育の資質も高まっており、地域に根差した人材育成を目指している。
- ・現在の在校生は 2019 年からのコロナ禍の中で、中学・高校を過ごしており、学生像が変わってきていると感じる。
- ・学生の育成としては生活、健康、学習の三側面からのサポートを行っているが、未熟さを感じる。
- ・学生の変化に伴い、育てたい学生、育てるためにはどうしたらいいかを対話、共有し、カリキュラムの見直しを考えた。
- ・教育理念、目的、目標は変更せず、卒業生像へと近づけるためディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)の変更を行う

①ディプロマ・ポリシー

→卒業時に身につける能力(判断・実践できる)、取り組む姿勢・態度として共有
現行の1)～6)について、表現をより詳細に明文化した。

1) 変動する社会の要請を理解し、看護職として適切に対応できる基礎能力を有している

- ・社会の変化を理解し、看護職として適切に対応する基礎力を育成するため。

→ 教育目標②「科学的根拠に基づく実践」と整合。

2) 保健・医療・福祉チームの一員として、看護の役割を理解し、協働できる能力を身につけている

- ・看護の役割理解と多職種協働能力を重視。

→ 教育目標③「制度理解と役割認識」、④「共感的態度と人間関係形成」と整合。

3) 対象者の状況に応じた安全で適切な看護実践ができる基礎的能力を有している

- ・安全性・適切性を踏まえた看護実践能力の基礎を強化。

→ 教育目標②「科学的根拠に基づく実践」と整合。

4) 人々の尊厳を尊重し、地域社会における健康と幸福に貢献しようとする姿勢を備えている

- ・尊厳の尊重、地域社会への視点、貢献しようとする姿勢を重視。

→ 教育目標⑤「生命の尊厳・人格の尊重」、教育目的「社会の要請に応える」、教育理念「人間愛」と整合。

5) 看護師としての倫理観と責任を持ち、状況に応じて自らの意思と判断で適切な行動をとる能力を有している

- ・倫理観・責任・状況判断・適切な行動を育成。

→ 教育目標⑤「高い倫理観を持って行動できる」と整合。

6) 自分自身を大切にし、学び続けながら成長できる人間性を身につけている

- ・自己を大切にし、学び続ける姿勢と成長できる人間性を重視。

→ 教育目標⑥「自分自身を大切にし、学び続ける」と整合。

②カリキュラム・ポリシー

教育理念・教育目的・教育目標に基づき、ディプロマ・ポリシーに示された資質・能力を備えた看護職を育成するため、学修内容と学習方法の方針を明確化し、教育課程を再編成した。

1. 学修内容の指針(何を学ぶか／何ができるようになるか)

1) 人間を統合的に理解する力

人間(看護の対象者)を全人的に捉える力を、講義・演習・実習を通して養う。

2) あらゆる健康状態・生活の場に対応できる基礎的看護実践力を養う学修

科学的根拠に基づき、安全で適切な看護を実践できる基礎力を段階的に育成する。

3) 保健・医療・福祉における看護の役割を養う学修

制度の理解、多職種連携、社会の要請に応える視点を養う。

4) 人々の多様な価値観を受容し、良好な人間関係を形成できる学修

共感的態度、コミュニケーション能力、協働力を育成。

5) 生命の尊厳と倫理観に基づき行動できる力を養う学修

倫理観と判断力を身につけ、適切に行動できる力を養う。

6) 自己理解と主体的に成長し続ける力を養う学修

自己理解を深め、主体的に学び続ける姿勢を育成。

2. 学習方法の指針(自ら学ぶ学修)

- ・講義で得た知識・技術を演習・実習で活用し、理解を深める
- ・グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ等の参加型学習を重視する
- ・振り返りを通して課題に気づき、補いながら学び続ける

3. カリキュラム・ポリシー(CP)変更の主な理由

- ・旧 CP は科目配置の理由が中心であったが、新 CP では「学生が何を学び、何ができるようになるか(学習成果)」を明確化した構成へ再編した。
- ・教育理念・目的・目標に基づき、DP に示す看護実践能力・人間形成能力を育成するための基本方針を提示した。
- ・看護実践力を育成するための6つの学修内容を体系化し、教育目標・DP との連動性を明確化した。
- ・学習者・教育者双方にとって理解しやすい教育方針(学修内容・方法)を提示した。

▶具体的課題・方策

- ・低学力者の支援→自立学習支援できる体制を整えている。また低学力者だけでなく中間層に対しても注視していく。
- ・千葉医療福祉専門学校(理学療法士・作業療法士養成学校)と学校間連携を行い、学生のうちから意図的に多職種連携を学び、経験させる。しかし、教育課程に組み込むための課題もある。
- ・教育の資質向上のため、教えるだけではなく学生自ら考え、学んだかを充足が図れるような教授方法の確立を目指す。ただ、教員が先回りをしてアドバイスや提示をしてしまうことがあ

る。学生の対話力、思考力を育てたい。

2) 看護×動物介在プログラムについて (資料 3)

近年、ペットの家族化が進む現代では、「ペットが心配で入院したくない」という患者へのケアが課題となっています。こうした医療現場における「動物の力」の必要性に応えるため、「動物を介在した看護」を基礎から実践まで体系的に学べる教育プログラムを考えている。

- ・設置背景— ペットの家族化に伴い、動物介在やペット同伴での入院需要が医療現場でも高まっているため

- ・目的— 人と動物のより良い療養環境づくりに対応できる専門知識を持った看護人材の育成

- ・学習内容— 基礎理論、臨床応用、感染・安全管理、倫理、動線設計

▶病院における動物介在の現状について

- ・北里大学病院では小児ケア、ターミナルケアの中に、ハンドラーの資格を持つ看護師とセラピー犬を配置。治療補助としての介入を行い、犬と関わる患者の様子を観察し評価する。

- ・亀田グループの森の里病院では入院患者とペットが同居できる病棟の開設が目前となっている。

- ・近隣では館山ファミリークリニックで、発達特性のある子供たちを対象とした、動物介在プログラムを実施している。

▶今後の課題

- ・教育プログラムについての内容は検討中である。

- ・動物介在に携わる専門性のある看護師の確立を目指す。

- ・記念講演等を開催し、動物介在看護の重要性を広めていくことを検討している。

討議

1) 看護学科ポリシー改訂について

DP(ディプロマ・ポリシー)の改訂と評価の課題

- ・改訂理由: 病院への入職時に DP の目標達成ができたかを調査した結果、芳しくなかったため、表現をわかりやすく改訂した。

- ・就職試験は 5 月に実施するため、卒業時に確定する DP の評価は提示できない。しかし、試験時にコミュニケーションスキルなどの人間性を評価・確認できる内申書的な情報が早期共有できれば、入職後の継続的な育成に役立つ。

- ・1、2 年生の履修科目(座学)だけでは DP には到達しない。机上で学んだことを実践の場で関連付けることで、学生の思考力や感性を育む。最終的には現場での自己評価を通じて自己確立をさせることが課題である。

多職種連携と現場での学び

- ・亀田病院では多職種間で時間・役割・場所を共有することで患者への治療・施術効果を上げている。学生のうちから実際の多職種連携を学ぶことは非常に有意義である。

- ・セル看護の実施により、転倒や褥瘡の軽減が数値として現れている。また、ベッドサイドでの見守りを通じてチーム連携が強化され、多職種間で声がかかけやすくなり、共通用語が理解できるようになったとの成果も出ている。

- ・人材育成および学びを深めるため、千葉医療福祉専門学校と提携する予定である。学生同士がお互いを知り、意見交換ができる合同プログラムを検討している。

カリキュラムの限界と人間性の育成

- ・現行の3年間のカリキュラムでは時間数的に厳しく、学生に考える時間を持たせることが難しい。人間性を育てるためには、ボランティアや地域との関わりを持ち、学生自らが「何を学ぶべきか」に気づくプロセスが必要である。

人材確保と今後の学生支援策

- ・人材の確保が全国的に難しく、選考が厳しい現状がある。今後は外国人スタッフの採用や役割の住み分けを視野に入れる必要がある。外国人スタッフは優しく人に関心があり、DPを身につけているケースも多い。

- ・鴨川市の看護師等修学資金は令和9年3月31日までとなっており、延期は難しい状況である。遠方からの進学に伴う一人暮らしの経済的負担を軽減するため、新たな学生支援方法を模索中である。

2) 看護×動物介在プログラムについて

プログラムの意義と効果

- ・患者さまだけでなく、看護師のメンタルサポート(心ケア)としても大きな効果が期待される。
- ・館山ファミリークリニックでは、コーディネーターが犬の適性を判断し、看護師だけでなく理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がチームを組んで運営している。犬との触れ合いにより、子どもが自発的に行動を起こすなど、高い介在価値が認められている。

今後の課題とニーズ

- ・医療現場における感染管理などの課題はあるものの、動物が好きな患者や医療スタッフは多く、潜在的なニーズは確実に存在する。
- ・看護と動物双方の視点を持つ人材育成のためのプログラム構築を目指す。

7. 今後の予定

次回の会議予定 令和8年11月18日(火)15時から16時30分
亀田医療技術専門学校 2号館3階 301教室